

安心して生きがいを持って働き続けるために

# きずな

発行：広島県労連  
介護福祉労働者連絡会

〒732-0052  
広島市東区光町2-9-24-205  
TEL 082-262-1550  
FAX 082-261-5059

## 第5回総会に40人が参加

6月12日（土）、第5回総会を中区地域福祉センターで開催。京都ヘルパー連絡会の2人を含め約40人が参加しました。また、すべての議案が採択されました。

### 7人が活動をいきいきと発言

総会は、為平新吾幹事の進行で始まり、議長に田中真由美さん（生協ひろしま福祉支部）が選出され、議事が進行しました。

広島県労連尾野進会長、由茅しま江連絡会会長が挨拶を行い、堂垣内美穂事務局長が議案を提案しました。

討論では7人が参加。

- ◇介護労組連絡会「2年前にサービス公社が廃止され組合員は減少しているが、一人でも入れる組合として、組織拡大に取り組んでいる」
- ◇生協ひろしま福祉支部「機関紙えがおの交流や全

国の人たちと交流している。ヘルパー一人ひとりの声を取り入れるよう組織化に取り組んでいる」

◇広島中央保健生協「ハートのポケット（機関紙）で情報を提供している。3月のしゃべり場で9名が新たに加入」

◇福祉保育労「対市交渉を行っている。一人でも入れる組合として、利用者と労働者の生活を守るため奮闘している」

◇広島◇医療生協「12月と5月に署名に取り組んだ。フィットネスに取り組んでいる」ホームヘルプ研究会「毎月事例を研究している」

◇介護保障を求めるひろしまの会「不適切事例として介護の制限が出されている。ローカルルールでますます悪くなっている」などいきいきとした報告でした。



△2時間の熱弁！小川栄二先生

### 立命館大学小川栄二先生が記念講演

記念講演は立命館大学教授小川栄二さん。「在宅支援における介護労働の未来を考える」と題して、介護保険導入後の10年を振り返りながら、在宅支援における介護労働について、とりわけホームヘルプは最も本源的な人間の共同の営みであり、高齢者が「生きていて良かった」といえるような生活と気持ちを支えようと話されました。

生活実態、サービス提供の側の実態もしっかり把握して、それを保険者に理解してもらうように働きかけるのも自身の役割だと再認識しました。◇共感できるお話でした。特にヘルパーの人格を通して行われる社会福祉サービスであること、配食サービスと違う人と人とのつながりで生活を支えていくこと、利用者のこだわりを大切にしたいと思いました。◇ヘルパーのは仕事が人間の生活を支える根源的なものであるというお話が印象深かった。◇介護保険制度の歴史も改めて理解できました。生活援助の大切さもわかり、矛盾に思っていたことが法令に縛られていたんだなと思いました。違うと思うことは声を上げなければと感じました。

### 参加者の感想より

◇保険者の言われるままに動くのではなく、利用者の



### 2010年度新役員

- 会長 齋藤美加 (生協ひろしま福祉支部)
- 副会長 由茅しま江 (介護福祉労組)
- 副会長 (広島医療生協労組)
- 事務局長 堂垣内美穂 (広島中央保健生協労組)
- 幹事 為平新吾 (福保労広島支部くすのき苑)
- 幹事 大島順一 (介護保障を求めるひろしまの会)
- 幹事 田中真由美 (生協ひろしま福祉支部)

※ 幹事は、以上以外の方にも依頼中です。

